

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 20 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800018
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホーム みさき
所在地	鹿児島県出水市庄 8 5 0 - 3 (電話) 0996-64-2780
自己評価作成日	H28年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは国道3号線沿いにあるが、隣には温泉施設があり周りには田園が広がり、冬には鶴が飛来・春は桜が楽しめるのどかな所です。19年開設当時から利用者の家族が運営する「家族会」があり、大きな行事「敬老会・忘年会・クリスマス会」は家族会主催で行って下さり、施設との連携を深めて貰っている。また当グループホームは地域の自治会に加入しており、運営推進委員会には自治会長さん・民生員さん・家族会の方に参加して頂いて、地域の情報を得るチャンスになっている。職員は当施設の目標「資質向上のための目標」に向けて、毎月のスタッフ会議でテーマを決めて、職員自身が勉強したことを発表しレベルアップに繋げている。

○ホームは市中心地より少し離れた国道3号線沿いに設置されており、周囲には田園が広がり冬はナベツルの飛来する自然豊かな環境で温泉施設が隣接している。広い園庭には菜園が設置され、また天窓が設けられている建物内は明るく、清掃や空調、防臭等にも細かに配慮されて快適な環境になっている。広いリビングには畳のスペースが設けられ、対面式キッチンからは調理の音や匂いが伝わり、対話や見守りが自然に行われている。友人知人の来訪も多く利用者は住み慣れた地区で地域住民と日常的に触れ合いながら穏やかに過ごしている。

○管理者及び職員は、ホームの理念に沿って、また年度目標も掲げて利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら想いの把握に努め、慣れ親しんだ地域の中でその人らしい安定した生活が過ごせるよう日々取り組んでいる。家族会の体制も確立しており、施設のイベント開催に際しては施設と協力して主体的に取り組むなど、利用者との触れ合いを大切に楽しんでいる。職員は相互の信頼及び協力関係を構築しており、利用者の改善に向けた意見を自由に出し合い、介護計画に反映させてサービスの向上に務めている。

○運営推進会議は家族及び自治会長、民生委員、市担当職員等が出席して定期的開催され、利用者のケアや災害時の対応等について予定時間を超すほど活発な意見交換がなされている。委員からの提案で市の災害無線の設置が実現し、災害時だけでなく日常的に放送される地域の情報は、地域との交流に十分活用される等、サービスの向上に反映している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当施設基本理念は開設当初より職員・利用者・ご家族が常に見える所に掲げてあり、スタッフ会議で再認識し合っている	開設時に作成した法人及びホームの理念に沿って、利用者が地域や家族と関わりながらその人らしく安心して過ごせるように思いやりを持った支援に日々努めている。理念はリビングに掲示し、スタッフ会議や日々の申し送り時に研修の実施やケアの振り返りを行ってケアに取り組んでおり、職員は各自の年間目標も設定してスキルアップを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、推進委員会に参加をしていただいている。昨年台風10号の後、自治会に防災無線ラジオの相談を行い格安で設置して頂いた。	自治会に加入しクリーン作戦や総会、行事等へ積極的に参加している。昨年、防災無線がホームにも設置され、地域の情報が日常的に得られて交流がより円滑に行われている。敬老会後の懇親会には地域の方々の参加もあり、また市の文化祭には利用者の作品も出展し、展示会場では他の作品も見学しながら人々と対話している。友人知人の来訪、舞踊や楽器の演奏などのボランティアの受け入れ、散歩時の挨拶や農産物の差し入れを頂くなど日常的に触れ合う機会は多く、利用者はこれらの人々との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学は自由に行えるように運営推進会議で呼びかけている。当施設の敬老会後のお茶会、有志の方の踊りの会などにはご近所の方に参加を呼び掛け利用者と一緒に楽しんで貰っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には地区の自治会長・民生委員・市の職員・家族会の代表に参加して頂き取り組みの様子を報告している。ヒヤリハットは事例を出し出席者で対策を話し合っている。また会にはスタッフも参加して活動報告や勉強会報告を行っている。</p>	<p>会議は2カ月に1回、家族、自治会長、民生委員、行政職員等の参加を得て開催し、利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、ヒヤリハットの事例の報告がなされると共に、行政職員の高齢者福祉に関する制度の説明や委員から災害時の対応に関する意見や地域の情報等が活発に出されている。委員から出された意見により、防災無線がホームにも新設されるなど、具体的にサービスの改善に活かされている。</p>		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>入居状況の報告や空き状態の報告相談を行っている。事故報告は詳細に報告相談をし、適切な指導を仰ぎながら対処に役立っている。</p>	<p>市担当職員には運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新や諸手続き等の際に運営やケアに関する相談や協議を行って、助言・指導を頂くなど密に連携を図ると共に、地域住民から寄せられる相談には行政と連携を図って対応している。市主催の会議や研修会に積極的に参加し、グループホーム協議会でも他施設や市担当職員と意見交換する機会も多く協力関係を築いている</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営管理関連書類の中に指針を作り、毎年見直しを行っているその都度発生する問題はカンファレンスを行い拘束しない対策を話し合うか、スタッフ会議で話し合っている。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、虐待防止や権利擁護等に関する研修を市担当職員を講師に計画的に実施して理解を深め、拘束のないケアの実践に努めている。特に言葉による拘束については、日常的にケアの振り返りや話し合いを行い、また不適切な対応に対してはその都度、改善を図って、利用者の安全の確保と自由な暮らしの支援に取り組んでいる。居室や玄関の施錠は行わず、職員は常に利用者の行動や思いの把握に努め、対話と一緒に散歩するなど寄り添うケアで安定を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の意識を高めるために毎年包括支援センターの職員の元勉強会を行っている。また職員自身で接遇の勉強会を行い、虐待につながらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の職員を招いて権利擁護の勉強会を行っている。自立支援や成年後見人制度については現在必要が無い為勉強会は行っていない。今後勉強会を行い、必要な時に活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の際は契約書・重要事項に基づいて説明し、施設で起こりうるリスクについても理解が得られるようにしている。改定がある場合はその都度説明を行い了承得たうえで行なうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族からの意見は随時聞けるように、面会時・家族会との交流会・担当者会議など話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見・要望は申し送りスタッフ会議で話し合い、サービスの改善に役立てている。	利用者の意見や思いは日常のケアの中で常に把握することに努め、家族とは来訪時の対話や電話、家族会、運営推進会議等で把握に努めている。家族会の体制が確立されており、施設の行事等には家族会も一緒に取り組みがなされている。出された意見等は「申送り帳」や「介護記録」等で共有を図り、職員全員で話し合っ改善に取り組むなど、サービスの向上に反映させている。改善の状況や結果については本人や家族にも報告して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常の意見は随時聴くようにしている。スタッフ会議では担当者が課題（意見）を拾い会議の議題にし、全員で話し合い反映に努めている。	職員の意見や要望等は、申し送りや日々のケアの中、毎月の「スタッフ会議」等で、また内容によっては一人一人に声かけや面接も行って把握に努め、申し送りやスタッフ会議等で協議して業務改善や利用者へのサービス向上に反映させ、働きやすい職場環境づくりに努めている。勤務シフトの作成や外部研修への参加についても職員の希望に添うように努め、資格取得に対しても資料の紹介や助言等を積極的に行う等職員のスキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりが役割を持ち得意とする事が業務内で生かされるよう努めている。又個々に目標を立ててもら有言実行に向けて支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加して貰い、そこで得た知識を他の職員にも共有して貰えるよう発表の場を設けたり、内部研修のも計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学させて頂いたり業務内容について参考にさせて頂いたりしながら、サービスの向上に役立てられるよう努めている。また研修に参加することで交流を持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活に少しずつ慣れて頂くように、レクリエーションや体操にお誘いしながら、会話・表情から本人の気持ちを読み取り、情報を共有してコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の担当者を決めて、生活歴・病歴の情報を基に、面会時に要望を傾聴して、担当者会議でも話し合いながら、サービスの中に織り込み支援している。面会時には様子報告をし、必要な時には電話で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活するうえで、気付いたことや必要な支援・本人の思い・家族の思いをアセスメント表に職員全員で記載しカンファレンスして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力・生活歴など把握し生活の中で関われる事・洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑仕事等お願いしている。また介護度にかかわらず、全員がレクリエーション・行事・買い物に参加できるよう計画を立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、行事に参加して貰い、本人・家族・職員と一緒に触れ合いながら、日ごろの様子を共有して貰いコミュニケーションを図っている。月1回施設便りを通して触れ合える機会も設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方・家族・親戚の方に面会や外出はいつでもできるようにしていることを伝えている。特に年末年始・お墓参りなどは一緒に参加して貰えるようお願いしている。行きつけの美容室でカット毛染めをされている方もいらっしゃる。	利用開始時に利用者の生活歴、病歴、家庭環境、地域との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行い、アセスメントシートに整理して情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり面談できるように場所やお茶の配慮を行い、本人の希望に沿って地域の行事への参加や買い物、墓参、外食、外出等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と協力して支援している。遠方の家族とは電話や手紙を取り次ぎの支援で関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格・日頃の関係を把握し、その日の状態を見て、テーブル席・ソファーに案内している。ソファーに座ったら皆さんの顔が見渡せるような配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は連携室を通して本人の様子、家族の気持ちを伺っている。必要があれば情報提供している。他の施設に移られた時は、家族に様子をうかがったり施設訪問を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々本人と接しながら希望を把握している。意思表示の困難な方はケアの反応を見ながらスタッフ会議や申し送りで検討し合っている。	利用者の思いや希望を日々のケアの中で汲みとり、誇りやプライバシーに配慮しながら本人主体のより良い暮らしが過ごせるように家族とも連携して支援している。衣服の選択や趣味（書道や読書、折り紙、ぬり絵等）の取り組み、余暇の過ごし方についても、可能な限り本人の希望を尊重した個別の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネ・医療機関等から情報を貰い、実際訪問をして本人・家族から情報を貰いながら生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを基に利用者の日常の状態を読み取り、状態を記録に残したり、申し送りで繋げて現状把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族が望む暮らしが出来るよう担当者会議を開き、サービス計画を立てている。スタッフ会議で担当者を中心にモニタリングを行い、変化があればスタッフ間で話し合い、家族に相談して再計画を立てている。	本人及び家族の意向及び主治医など関係者からの情報等を基に、3か月毎のモニタリングやカンファレンスを行い、きめ細かな介護計画を作成して改善に取り組んでいる。計画の内容は利用者や家族に十分説明して理解を得ており、ケアの実施状況は「介護記録」や「送り帳」「体調管理表」等で共有している。けがや入院等による利用者の状況の変動に対しても、その都度、計画を見直して実情に即した計画を作成して改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・サービス計画書ヒヤリハット等記録物には全員が目を通すようにして入る。ヒヤリハットや事故報告はその都度カンファレンスを行い、必要なら月1回のスタッフ会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望は常に聞くようにしており、速やかに対応出来るものはその日のリーダーを中心にカンファレンスするかスタッフ会議で全員で話し合って見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の農家から食材を貰ったりしているが、施設では夏冬の野菜栽培・種まき収穫、四季の花植えをみんなで行なうことを通して自然と触れ合えるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族に決めて貰い、受診か往診を受けるかも希望で行なっている。診察時には、診察記録で経過報告して主治医から指示連絡を貰うようにしている。他科受診の際は、主治医の指示を仰ぎ家族に説明し受診して貰い、主治医に結果報告を行っている。	病歴やかかりつけ医を入所時に把握し、入所前の医療機関で継続して治療している。通院は原則家族が付き添っているが、緊急な場合や家族の不都合な時は職員が同行している。また、利用者の状況により訪問診療も実施されている。受診に際しては「診察記録」で利用者の病状を伝え、主治医からも指導助言を記載してもらおう等、医療連携の体制が構築されている。受診の状況は、家族と密に連絡を取り合っ共通の認識と対応に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の検温・血圧測定の変異や入浴時の身体観察・日中の表情を観察して異変を発見したら看護師に相談している。受診時の診察記録をその都度看護師は記入し、受診前後の表記を全職員が見れるように掲示している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中の状態を連携室を通して情報を貰い、退院後の受け入れやケアの注意点などについて意見交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化や末期については説明を行っている。体調に変化が生じた時はその都度家族の意向を確認して相談しながら対応している。</p>	<p>利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」で、重度化や終末期のホームの対応を丁寧に説明して同意を貰っている。利用者が重度化した時点で主治医から病状等の説明がなされ、家族の意向を確認しており、状況によっては医療機関への入院や特別養護老人ホームへの入所等選択肢も示しながら、ホームで可能な限りの支援に取り組んでいる。これまでは入院等の希望が殆んどで看取りの実施事例は無い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の救急法（心肺蘇生法・AEDの使い方）の研修を全職員受けている。またスタッフ会議で勉強会を行ない、マニュアルの見直しを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な自主避難訓練と消防署の協力を得て年2回避難訓練・消火訓練を行っている。避難通報連絡網に地域の自治会長さん・消防団長さん・民生員さんにも連絡網の中に入って貰い、訓練の時も協力して貰っている。自治会の協力で地域防災無線の設置をして頂いた。</p>	<p>年2回、夜間を含む火災を想定した訓練を消防署の協力を得て実施し、併せて消防署職員による防災に関する講話や消火器の取扱い等の研修も実施されている。また、新人職員の採用時には、随時自主訓練を実施して通報や消火、避難経路等の修得を図っている。昨年、市の防災無線がホームにも設置され、的確な情報が得られるようになっている。近隣の地域住民との協力体制も築かれおり、災害時の連絡先として自治会長や民生委員も組み込まれている。スプリンクラーや消火器の設置や災害に備えた食料や飲料水、介護用品等も備蓄されている。県外の災害の事例を参考に、また原発事故発生も想定したマニュアルの整備を作業中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づいた介護を目指して同調する姿勢・人生の先輩として尊重する精神を忘れず、トイレ・入浴時ではプライバシーや誇りを傷つけないよう心掛けています。	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないために、計画的に接遇や権利擁護等の研修を実施し、日々の支援の中でも職員間で注意し合う等、常に意識して支援に取り組んでいる。特に排泄、入浴、衣服の着脱時の支援や言葉使いは適切な対応になるよう配慮している。利用者に係る台帳類の管理も適切で、居室や浴室、トイレ等はプライバシーに配慮された構造となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談を交えながら、思い出話しや得意なことなどの話の中から本人の思いを引出し、希望に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを崩さないようにして入る。入浴したくない時は時間を変えたり日を変えている。行事・レクリエーションは無理強いせず本人のやりたいことをやってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類は季節に合ったもの、本人の好みの物を、家族と相談しながら準備している。洗顔後・入浴後の整髪・クリームは使い慣れたものを準備して貰っている。また化粧は気が向いた時間に行って貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、玉ねぎの皮むき・もやしの根とり・お盆拭き等一緒にやることは手伝って貰い昼食はスタッフも一緒に食べている。また畑の手入れも一緒に行って、保存食作りを行っている。	管理栄養士が、利用者の好みや食事形態、栄養バランス等に配慮した1週間ごとの基本メニューを作成し、調理師が旬の食材や調理法、盛り付け等に気を配り調理している。おせちや節句、誕生会、クリスマス会等の行事食や手作りのラッキョウ漬けやおやつ、弁当持参の花見、レストランでの外食、園庭での食事など家族と協力して食事が楽しみなものとなるよう、様々な工夫をしている。利用者も下ごしらえや下膳、野菜の収穫等に関心を持って楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立の基、飽きのこないメニューで本人の好み・食べ易い食形態で提供している。1日の水分・食事は記録に残し、補食や補水等のケアに繋がっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の義歯・自歯の状態を把握し、毎食後歯ブラシ・歯間ブラシを使い口腔ケアを行って貰う。一人ひとり磨き残しが無いか職員が点検し仕上げ介助を行い、必要な方には舌ブラシの使用を行なう。冬期は緑茶うがいを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使い個々のパターンを把握している。時間間隔や行動を見て、声掛けや誘導を行っている。声掛けの仕方・タイミングを申し送り、トイレでの排泄に繋がっている。またパットの使用については、スタッフ会議で検討し合っている。	水洗トイレが各居室に設置されており、利用者の見守りや体調管理表で排泄パターンの把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に沿った介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めており、トイレ誘導や汚した衣服の交換に際しては、利用者の気持ちやプライバシーに十分配慮して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便状態を把握し、水分補給・毎日の体操・オリゴ糖の使用・腹部マッサージで便秘予防を心がけている。頑固な便秘の時は主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	自分から今日は入りたいと言われたら、優先的に入ってもらっている。体調不良・拒否があれば、曜日を変えたり・時間を変えて行っている。	入浴は週3回が基本であるが、排泄の失敗等には随時、清拭や入浴で清潔の保持に努めている。利用者の好みの温度や時間に配慮し、ゆず湯やヨモギ湯に配慮し石鹸など消耗品への拘りにも可能な限り対応し、ゆっくりした気分で個浴を楽しんでもらっている。保湿クリームや塗布や皮膚疾患の手当も行ないながら親密な会話を交わすコミュニケーションの場にもなっている。入浴を拒む利用者には無理強いしないで、スタッフや時間の変更など工夫して、入浴への意向を待つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・昼寝はその日の調子を見ながら希望される時間に床に入ってもらっている。足元の冷える方は電気敷毛布・湯たんぽを使い安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書は常時誰でも見れる所に置いて確認できるようにしている。薬変更・用法が変わった時は、診察記録・申し送りノートで周知するようにしている。抗精神薬は経過表で状態を全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・日々の生活から、その方に合った趣味特技を生かせる様に、縫い物・食材の下ごしらえ・畑仕事などをやってもらっている。四季に合った雰囲気作り・買い物・ドライブなどを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はベランダでの外気浴・職員と一緒に買い物同行している。ドライブで近隣で四季折々の風物を楽しんでいる。また家族との外食を希望される方には隣の温泉施設に協力を得て食事を楽しんで貰っている。	敷地は広く日当たりもよく、自由に園庭の散歩やベランダでの日光浴、食材の買い物への同行を楽しんでいる。利用者の健康状態や天候を配慮しながら、可能な限り利用者の希望に添ってミニドライブや近隣の商店での買い物、季節の花見、外食などに出かけて気分転換を図っている。一時帰宅や外泊、墓参、美容室での整髪などは家族と協力して楽しく外出できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者にはお小遣いを所持して貰っている。職員の食材買い出しの時同行して貰い、自分でレジで支払いをしてもらっている。また職員が預かり希望の嗜好品を買って、職員と一緒にお帳面を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった時や、向こうから様子伺いの電話があった時には、本人に出て貰っている。贈り物が届いた時には本人にお礼の電話を入れて貰っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行の障害になるものは避けて歩きやすい空間を作り、大窓からは外の景色が見れ、日光浴が出来るようにソファの配置を工夫する。気温・湿度に気を付けてまめな調整を行い快適に過ごせる様に努めている。リビング・玄関では季節感を味わえるように、手作りのカレンダー・飾り物を作っている。	広い庭には菜園も設置され季節の野菜が植えられ、ウッドデッキでは日光浴・お茶会などが楽しめるようにベンチも設置されている。ホームは木造の平屋造りで、リビングや廊下は余裕ある広さで天窓があるため明るく、また清掃もいきとどき異臭や空調にも十分配慮されている。対面式のキッチンからは調理の音や匂いが伝わってくるなど家庭的な雰囲気になっており、リビングにはテーブルや椅子・ソファ・テレビなどが設置され、広い畳のスペースも設けてある。随所に利用者の作品や花、写真等が飾られて、和やかで居心地の良い空間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファが設けてある。それぞれに好みの場所があり、気の合った方と談話されたり、テレビを見たり、書写や塗り絵を好まれる方は、テーブル席で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ラジオ・着なれた服など今までと同じような雰囲気で行生活をして貰うようにしている。ベッド・箆笥の位置は安全性を考えながら本人の使い易いように工夫している。	各居室は余裕のある広さで明るくベッド、エアコン、クローゼット、水洗トイレが設置され、窓からツルの飛来や田園の景色が望め、利用者は四季を感じながら寛いでいる。利用者には使い慣れた家具や写真、身の回りの小物を自由に持ち込んで頂き、身体状態に応じてベッドの高さや安全な動線を確認しながらそれらを配置して、家庭同様に落ち着いて居心地良く過ごせる居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで壁側に手すりを付けてある。自立度に合わせてシルバーカー・歩行器が安全に使えるように歩行通路を確保し、その人に合わせた支援が出来るようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない